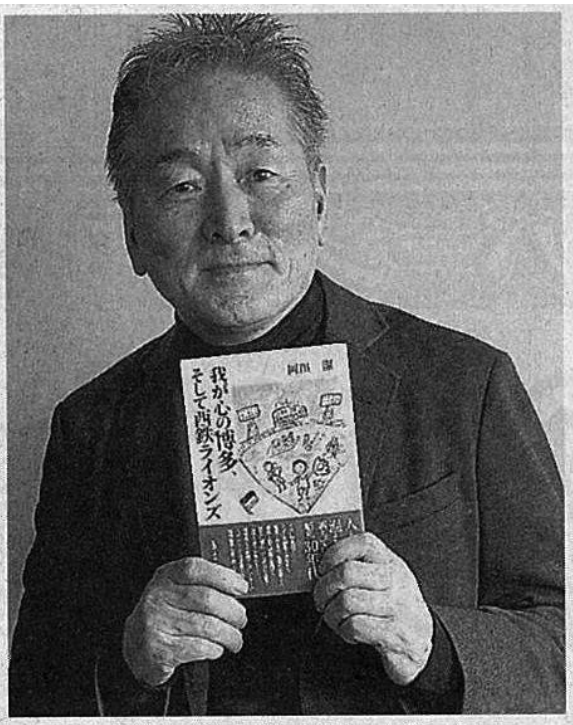
「望郷と恩返し」込めて

自伝的エッセー「我が心の博多」

演劇プロデューサー 岡田さんが出版

福岡市出身の演劇プロデューサー、岡田潔さん(66)＝東京都在住＝が、自伝的エッセー集「我が心の博多、そして西鉄ライオンズ」を出版した。少年期を過ごした昭和30年代の博多の様子をつづっており「みんな貧乏だったけど、助け合って懸命に生きていた。その風景やぬくもりを書きたかった」と話す。



「私の原点を書きつづった本です」と岡田潔さん

岡田さんは現在の博多区博多駅前3丁目辺りで育ち、福岡工高から明治大学を出て世界を約10年間放浪。帰国後、演劇の世界に入り、演劇企画制作会社「トム・プロジェクト」を立ち上げ、08年には紀伊國屋演劇賞団体賞を受賞した。

「1963年の博多駅移設に伴う区画整理前にあった石炭ガラを敷き詰めた広っぱと西鉄ライオンズが私の原点。今の博多は、あまりに大都市化しすぎて、人の体臭や体温が感じられない。デジタルと記号が支配しているような気がする。だから私は、博多は大都市に『成り下がった』と評しています」と岡田さんは言う。

雑誌連載をまとめた本だが、出版前の08年には一足早く演劇化。「エルスール・我が心の博多、そして西鉄ライオンズ」として東京で初演された。ガラ広っぱとライオンズを巡る、長屋住民たちの生々しい熱気に満ちた群像ドラマに仕立てられ、09年と昨年に福岡公演も実現した。

岡田さんは「この本は、私という人間ができていった活字ドキュメント。切ない望郷の思いもあるが、博多への恩返しのつもりで書いた」と話している。

四六判、206ページで、1680円。海鳥社。

【城山均】